愛知山岳連盟ニュース

発行所　愛知県山岳連盟
発行人　石川富康
編集人　中平等新一
名古屋市天白区中平3-1902
TEL&FAX 052-802-8062

◇10月20～21日　救助技術講習会・研修会（於・南山）　http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/

東海ブロック大会に出場の選手たち

国民体育大会東海ブロック大会

成年男・女　少年女子が本国体へ

7月21日(土)、22日(日)に国体東海ブロック大会が、プレイマウンテン（岡崎市）と岐阜市特設山岳競技場を会場として開催されました。

競技は、1日目のボルダリング競技、2日目のリード競技で競われ、その結果、成年女子は1位、少年男子は2位、少年女子は1位となり、いずれも本国体（岐阜県開催）への出場権を得ました。成年男子は予選がないため、全カテゴリーが本国体へ出場します。本国体は、9月末より岐阜市で行われます。さらなる応援をお願いします。（杉本憲広）

〈結　果〉

▼成年女子　①　愛知県（柳田茜(監督)、三浦真理子・加島厚子(選手)）②　静岡県

▼少年男子　①　静岡県　②　愛知県（篠原克典(監督)、長谷川拓海・長谷川寛太(選手)）③　三重県

▼少年女子　①　愛知県（大山史洋(監督)、大場美和・桑原真凛(選手)）②　三重県　③　静岡県

※岐阜県は開催県なのでオープンとしての出場で、上記の順位に含みません。

第59回東海総体開く

6月15日(金)から17日(日)に第59回東海高等学校総合体育大会登山大会が愛知県民の森をベースに行われました。愛知県からは男子で菊里高校と時習館高校、女子で半田高校と桜丘高校が参加しました。参加チーム数は、男子が静岡2、岐阜0、三重2、愛知2、女子は静岡2、岐阜1、三重2、愛知2の合計13チームの参加でした。

今年の東海大会は、本来岐阜県で行う年なのですが、岐阜県内の高校登山部の激減により大会運営ができないため愛知県での開催になりました。

結果は以下の通り。（岩狭満）

▼男　子
①静岡県・藤枝東　②静岡県・浜松日体　③三重県・神戸　④愛知県・時習館　⑤愛知県・菊里

▼女　子
①静岡県・静岡　②静岡県・日大三島　③岐阜県・飛騨神岡　④愛知県・半田　⑤愛知県・桜丘

平成24年度確保技術講習会

懸垂下降システムや流動分散など

～東屋と岩場を使って二日間実施～

確保技術講習会が6月23日(土)24日(日)の2日間、南山の岩場に於いて午前10時から行われた。

第一日目の岩初級コースと中級コースに20人の受講者があり、初級コースのテーマ「シングルピッチでの岩登りのスタート」で、ロープワーク、アンカーの構築、アンカーの構築から登攀開始まで。午後から女岩に行き、トップの確保と自己脱出、セカンドの確保の練習をする。

また、中級コースのテーマ「マルチピッチにおけるリーダーとしての登攀技術」では、ロープの結び方、東屋周辺で懸垂下降システム、午後は、道路わきの岩に移動して自己脱出訓練を行った。

講習は午後5時で打ち切られ、宿泊先の岡崎市にある「龍渓院」に向かった。宿泊者は翌日受講の人も加わって22人となり、今日の反省や明日の講習内容について語り合い、その後、賑やかな懇談になった。

二日目、午前8時から受け付けられ、縦走コースに12人の参加があり、岩コースと指導員の44人で始められた。

縦走コースは、午前中は計画書の確認と読図、ロープワークなど行い、午後は悪場でフィックスロープの通過、アンカーと支点、基本的な登攀システム、搬送者の確保など駐車場広場と裏山で行った。

なお、岩コースは昨日につづき東屋と男岩で実施された。

初級は、前日の復習としてトップが墜落した時の確保者への衝撃荷重のかかり方の確認（つなひき）懸垂下降システム、懸垂下降中の仮固定と登り返しをし、午後は男岩に行き懸垂下降を行った。

東屋広場でロープワーク

中級は、懸垂下降、カウンターラッペリングと仮固定を女岩に移動して行い、午後は東屋でバルトダンヒッチを使って登り返しと懸垂下降、自己脱出など実施した。

講習は、午後3時まで続けられ、各班ごとに反省会がもたれた。

更に閉講式では各班の主任講師から、縦走コースの方で岩コースに行った方がいい人もいた。岩初級では、岩の登り方も実際にやったらどうか。2日間やるためのメニューをもう少し考えては。また、中級ではロープワークだけでなく、実際の岩場で実践的なこともでき、足場の悪いところでメインロープで流動分散をし、マルチピッチの練習ができたので良かった。

路肩の岩を使って実習

などの意見が述べられ、講習会は無事終了した。

（中平等新一）

なお、講師を担当した指導部の方は次のとおりです。

木田光彦、田邊康治、高木宏、久山千春、山本幸久、久山立、坂口公美、久保田敏康、石川まゆみ、内田博昭、岩瀬幹生、中山秀樹、高橋優

▼研修＝山本哲也、磯村雅仁、磯部誠、近藤香織（順不同）

講習会を振り返って

指導員　内田　博昭

東海地方も梅雨入りしたが、6月23日・24日の2日間は天候に恵まれた。また受講者は過去最多であろうか、土曜日は、岩登り初級9名・中級5名・検定1名、日曜日はそれに加え縦走11名、講師・研修指導員を合わせると総勢約40名が南山に参集し、確保技術講習会が開催された。

それぞれ経験豊かな講師陣により、縦走コースでは読図、ロープワーク、悪場の通過、そして岩登りでは初級・中級コースに分かれ、ロープワークや流動分散、自己脱出、懸垂下降、ピッチを分けてトップの交代や登り返しなど、丁寧な説明と確実な技術習得を目指しての熱心な指導が展開された。

そして、夜は岡崎の龍渓院において宿泊者による懇親会が催された。美味しい料理とお酒を囲みながら、山の会を越えて山の話と笑いの花が咲き乱れ、大いに盛り上がった。

昨年から岩登りは2日間講習となり、特に初心者にとってはじっくり取り組むことができ、大変満足していたようである。「次はいつ講習会があるのか？」との嬉しい問い合わせもあった。

この講習会の学びをそれぞれの会で活かして、また今シーズンも安全で楽しい登山を目指していただきたい！

家でも復習したい

春日井山岳会　永井万紀子

2日間、他の山岳会の方達と楽しく講習を受けることができました。

教わった内容はクライミングにおいて基本的で重要なもので、これがきちんと出来なければ、パートナーとして信頼されないと思います。

実際の岩場でもできるよう、家で復習したいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。

気象遭難対策講習会

山の天気と天気図の見方

7月1日(日)気象遭難対策講習会が県スポーツ会館大会議室に於いて行われた。講師は昨年に引き続いて気象予報士・上田歳彦氏（豊川山岳会）を迎え70名が受講しました。

気象予報士
上田　歳彦

昨年に引き続き中級レベルの内容として、普段からある程度天気予報解説や地上天気図について馴染みがおありの方をイメージし、高層天気図を含めた天気図の読み方や遭難事例をまじえ、気象状況と山での行動判断を結びつけた講習会としました。

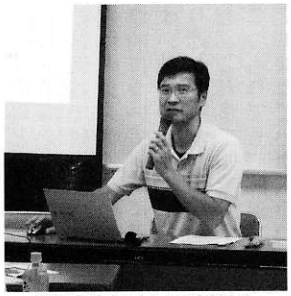
昨年の講習会では3割の方が難しかったと答えられていたため、分かりやすくする工夫を加えましたが、高校生を含め山を始められて長くない方には難しい内容だったかと反省しており、来年度はより改善をはかりたいと考えます。

また太字の項目については、昨年度のアンケートより変更、補強を加えました。

1．気象の基礎
・不安定な大気と上昇気流
・ジェット気流、気圧の谷と温帯低気圧の発達
・観天望気…**10種雲形と悪天をもたらす雲**
2．天気図の見方
・地上天気図の見方
・種々の高層天気図の見方と活用
3．四季の気象と山の天気…山岳遭難の事例含めて解説
・春山、秋山の天気…気象遭難の一番の原因、温帯低気圧の発達
・夏山の天気…梅雨、雷雨、台風
・冬山の天気…山雪型・里雪型、南岸低気圧
…山域ごとの天気、冬型継続を読む
4．**今年のゴールデンウィークの気象状況を読む…予想と実況**
5．まとめ…楽しく安全に登るための準備と実践

今回のアンケートでも3割の方が難しいと答えられ、特に高層天気図については馴染みが薄いため難しいという声が多かったようです。図面を使った作業も加えて、上空の気圧の谷と寒気は500hPa図、下層の温かく湿った空気は850hPa図と活用を絞って、理解頂ける工夫をしていきたいと思います。資料も字や図表が細かくて見辛いというご指摘が多数ありました。資料の枚数との関係がありますが改善したいと思います。また天気が悪い時だけでなく、いい時はこういう気圧配置といった説明の要望もありました。改善していきます。

今年のGWは気象状況の悪化が引き金となった遭難が相次ぎました。愛知の仲間も残念な結果になりましたが、こういった気象起因の遭難を起こさないよう、みなさんと勉強を続けていけたらと思います。


講義をする上田歳彦氏

説得力のある講義

名古屋山岳会
有冨　保之

講師の先生は気象予報士の上田歳彦先生。ご自身も現役で山に登っておられるので、どれもとても説得力のあるお話ばかりでした。

午前は気象の基礎、天気図の見方。地上天気図に高層天気図が加わることでいかに正確な情報が得られるのか良く分かりました。850hPa面図と500hPa面図の組み合わせで「気圧の谷に寒気の流れ込む様子」なども、素人の私にもなるほどよく分かります。

午後からは四季の気象の天気や気象遭難の事例を含めたお話。2009年7月のトムラウシや、今年のゴールデンウィークの気象遭難を天気図を使って詳しい解説がありました。参加者からの質問もたくさんありました。

私も今年のゴールデンウィークは北アルプスの山に入山していましたが、「雨が降る程度の低気圧で、すぐに西へ抜けていくだろう」、くらいに思っていました。専門家の間では「シベリア沖に動かない高気圧が存在（ブロック高気圧）」→「そのために低気圧が東へ抜けることが出来ない」→「すぐ西の気圧の谷を上空の寒気が流れ込んでいく」→「一時的に強い西高東低の冬型の気圧配置」と、今回のような「悪天（急激な冷え込みと強い風）」はすでに予測されていたようです。我々が安易に新聞の「天気図」や「週間天気予報」程度で長期の山に入ってしまうことが、いかに危険なのかを知りました。

最後に、気象遭難を防ぐために「各山岳会に気象担当をおき、長期山行前に天候の予測したり情報の配信をしてあげると良い」、「急な天候に対応してリスク回避できる体力作りを普段からしておきましょう」などのアドバイスもありました。これなら我々もこれからすぐに出来そうです。

『気象大全（山と渓谷社）』やインターネットで『HBC専門天気図』などの紹介もありました。私も所属の会へ伝えて、仲間の事故を少しでも防ぐために活かしてみたいと思います。

国立登山研修所　平成24年度安全登山普及指導者中央研修会報告

平成24年6月29日から7月1日の3日間において、立山駅から徒歩2分の国立登山研修所および周辺山域、雑穀谷岩場にて安全登山のための研修会が開催された。参加者は19歳から65歳までの46名であった。それぞれの各地域の所属団体での指導的立場の人や指導者を目指す人たちである。ここでは、チームの実力に合った安全な登山を実践できる知識と技術の習得を目指している。研修で学ぶスキルを大きく二つのカテゴリーに分けた。一つは登山計画と読図（読図・プランニング）を主体に研修する7チーム（合計26名）で、もう一つは登攀のうち確保技術（登攀技術）を主体に研修する8チーム（合計20名）である。講師は17名、所長他2名と補助員2名が講義や実地研修を支えた。読図・プランニングのチームでは、1チームに講師1名、研修生3～5名の割合で、登攀技術のチームについては講師1名に研修生2～3名の割合で構成された。

読図・プランニングチーム…1日目（6／29）天気晴れ時々曇り。読図技術の基礎と翌日からの実地登山のための計画立案を夜までみっちり行った。2日目（6／30）天気晴れ。研修所から車で15分くらいのスキー場の上部の山域で実地研修された。登山道から外れて地形と地図との関係を捉えながら、ピークや尾根や峠などのそれぞれのチームの予定コースを辿った。沢にコースを取ったチームでは、胸まで水に浸かった者もいた。読図や精密な登山計画も不完全でなく、登山道しかこれまで歩いていない指導者が多く、登山道を外れると、歩行バランスが急に低下し、観察範囲も極端に狭くなる人が目立った。3日目（7／1）雨。前日の復習を兼ねて、幾つかのチームは、再び研修所周辺の山の尾根を主に研修した。高校山岳部の顧問の先生は生徒の指導のために、読図や引率の技術にも役立つ練習も行った。

登攀チーム…1日目（6／29）、確保に関わるロープやカラビナなどの道具の特性や強度、制動確保の原理や原則を学び、普段から疑問に思っていることなども質疑応答して、具体的に研修した。夜は装備の携行の仕方やアンカーの基本などを体育館のウォールも利用して実習した。2日目（6／30）、研修所の16mの人工岩場と3mほどの小さな人工岩場や車で10分くらいの雑穀谷で研修が行われた。確保のシステムや懸垂下降の原則について、特に事故しやすい技術の弱点について、繰り返し徹底した反復練習を行った。これまで頭で分かっているつもりでも、間違った方法で確保していた人の技術も修正された。一方で、昔にやった技術にとらわれて、現在の道具の機能を十分に発揮するためのスキルに戸惑う人もいた。確保技術において、お互いのコールは短く、的確に、大きな声で行うべきであるが、十分な人は少なかった。3日目（7／1）、前日の復習を兼ねて、幾つかのチームは再び雑穀谷でプロテクションと懸垂下降の練習を行った。研修所周辺の小さい人工岩場や体育館のウォールも利用され、復習を重ねた。

いずれも熱心に研修された。帰ったらすぐに、何度も繰り返して山で実施してほしい。伝達講習などという形式的なものではなく、生々しい山で、リーダーとして習ったことを実践すべきである。登山では、予測とコントロールによって安全が確保される。多くの質の高い体験を山で重ね、自らの命と仲間の命を守りながら、ワクワクするような楽しい登山を続けてほしい。

（文責・主任講師　北村憲彦）

遭難対策委員会研修会兼総会
"自己責任"について討議する

遭難対策委員　鈴木康夫

6月23日(土)24日(日)茨城県つくばの「レイクサイドホテルつくば」に於いて、遭難対策委員会研修会と総会が開催され36名が出席しました。

最初に報告事故として、三重県・藤原岳登山者遭難事故について、各県からの捜索協力について謝辞が述べられ、つづいて基調報告に入った。

冒頭、遭対の西内委員長より24年度のメインテーマは"自己責任"という説明があり、つづいて青山副委員長より"自己責任を考える"。太田山岳文化学会員より"登山における責任"等の基調報告があった。

遭対活動において青山氏は"倫理、法律、規範"が重要であること。太田氏は"危険引き受け"民法上の損害賠償について説明（1)故意又は過失である行為に基づくこと。(2)行為者に責任能力があること（年令的には11～12才）。(3)他人の権利を侵害しないこと。(4)損害が発生したこと。）等について述べられた。

研究討議では、3班に分かれて行われたが"自主登山"が中心に議論された。以下、学生山岳部、社会人山岳会、社会人の同好山岳愛好会について考えた場合"連れて行ってもらう"他力登山から自主登山の変化、行動が重要になってくる。登山する領域のクライミング技術、体力トレーニングや各種登山の講習会等をいかに山行で生かすかが肝要である。登山に際しては、事前にインターネットや山行してきた仲間から、山行予定領域の情報を集めることが大切である。（岩場、ガレ場、落石場所等の危険箇所、山道の変更、テン場や山小屋の変更）またリーダーが作成する登山計画書に関しても、留守宅への連絡、計画書における装備や季節等の防寒対策、食料、山行時間、通信手段、エスケープルート、山行領域の変更有無等の事前確認する必要があることなどが再確認をした。

"自主登山は自己救助・自己救済・自己責任"である。

（やまびこ山想会）

平成24年度全国山岳遭難対策協議会

遭難事故の実態と救助活動の現状

副会長　中平等新一

全国山岳遭難対策協議会が7月11日(水)文部科学省3階講堂で、全国から警察、消防、山岳等の関係者350人が出席して開催された。

10時から開会式が行われ、文部科学省スポーツ青少年局スポーツ振興課長・嶋倉剛氏が挨拶。つづいて報告が行われ、最初は「平成23年中の山岳遭難事故概況」を警察庁生活安全局地域課補佐・大林昌弘氏より発表（下表参照）され、特徴として22年度までは右肩上がりで増加していた事故が、23年度は若干の減少はみられたが、依然として中高年者の事故が多く、携帯電話による通信手段が65％占めていた。

次に「消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会概要報告」を総務省防災課広域応援室航空専門官・森田壽彦氏が行い、航空消防体制の整備で事故時の共通性はホバリング（空中停止）をし、ホイスト（救出ワイヤー巻き上げ機）による救助を実施。この救助方法は山岳に限らず離着陸する場所がない場合に多用される方法である。（総重量5トン迄しか飛べない）また、高所など酸素が薄くなると出力が落ちる。等の報告があった。

報告の最後は「山岳遭難救助に対する兵庫県の取り組みについて」兵庫県消防防災航空隊航空救助係長・東谷浩二氏が神戸消防防災航空隊の組織と救助活動の実態を発表し、今後は山岳連盟等との協力体制の確立を課題とした。

昼食、休憩をはさんで午後1時30分から講演が始められた。

まず「日本における国際認定山岳医制度について」日本登山医学会認定山岳医委員長・増山茂氏は「日本登山医学会認定山岳医」を養成しており、参加されている皆様に協力を呼びかけた。また「日本における国際認定山岳医制度について」英国国際山岳医の大城和恵氏が、山岳救助への医療導入について欧米の知見を紹介。日本でも医療導入が可能であるか、遭難現場での医療導入の取り組みを紹介された。

次に「那須山岳救助隊での遭難防止への取り組み」を那須山岳救助副隊長・渡部逸郎氏が行った。救助隊はボランティアで活動しているが高齢化している。那須岳遭難の特色は2つあり、強風による気象遭難と入山する人の多さである。特に景色だけのつもりの観光客が、地図も持たずにそのまま登山をし、道迷いなどを起こす。

遭難を減らす取り組みとして、登山道の整備、道標整備、登山届けの推進を行っている。

以上で講演は終了し、つづいて「山岳遭難事故防止のために」の提案が、国立登山研修所長・渡邊雄二氏から発表され承認された。

最後に、日本山岳協会長・神崎忠男氏が閉会の挨拶を述べて、16時30分閉会した。

〈 山岳遭難発生状況の推移 〉

平成２３年中における山岳遭難は、

- ○　発生件数……１，８３０件（前年対比－１１２件）
- ○　遭難者数……２，２０４人（前年対比－１９２人）
- ○　死者・行方不明者……　２７５人（前年対比－　１９人）

である。

発生件数、遭難者数は、昭和36年以降、前年に次いで過去２番目に高い数字を示した。

なお、平成２３年中の発生状況を１０年前の平成１４年と比較すると、

- ○　発生件数……＋４８２件
- ○　遭難者数……＋５７３人
- ○　死者・行方不明者…＋　３３人

とそれぞれ増加している。

【過去１０年間の山岳遭難発生状況】

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
発生件数	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830
遭難者数	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204
(死者・不明者)	242	230	267	273	278	259	281	317	294	275
(負　傷　者)	684	677	660	716	648	666	698	670	832	819
(無事救出等)	705	759	682	695	927	883	954	1,098	1,270	1,110

※「不明者」とは行方不明者を示し、「無事救出等」には自力下山を含む。

CLIMBING PARK　東三河初のクライミング施設
http://climbing-park.com　☎0532-26-3737
住所：愛知県豊橋市関屋町138番地
MONTANA モンタニア
住所　愛知県豊橋市萱町5番地　☎0532-55-0125　http://www.montania.jp

ビギナーから安心して選べる三河地区のプロショップ
エキスパートまで
JR刈谷駅前
穂高
登山用品豊富！
〒448 刈谷市桜町1-13
TEL0566(23)8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00～20:00

名古屋・伏見 長者町 の山用品専門店
MOUNT & OUTDOOR GOODS PRO SHOP
ステラアルピーナ
(旧シャッツバーム)
名古屋市中区錦二丁目5-31　長者町相互ビル2F　☎052-231-0739
営業時間/11:00～8:30pm(日曜日は7:00pm迄)

Renopoint
http://www.renopoint.jp
Original Wear & Goods
オリジナルウェア・CMウェア（広告掲載）
カジュアルユニフォーム&グッズ
デザイン・企画・制作
お気軽にお問合せ下さい。
特許出願 GLASS PERCH(グラスパーチ)
株式会社リノポイント　〒491-0835　愛知県一宮市あずら1-5-7
TEL:0586-58-5021　FAX:0586-58-5022　E-mail: ito@renopint.jp

名古屋駅前の山とスキーの専門店
駅前アルプス
〒450-0002　名古屋市中村区名駅四丁目11－27
（第２トヨタビル東館１Ｆ）
TEL 052-565-1417

うなぎ錦三丁目　いば　しょう
いろは昇
〒460-0003　名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL〈052〉951－1166番
営業時間　午前 11:00～午後 2:30
午後　4:00～午後 8:00
定休日　日曜日・第二・第三月曜日

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成
西山行政書士事務所
〒460-0002
名古屋市中区丸の内３丁目1523番地 大栄ビル204号室
ＴＥＬ：052-961-6506　ＦＡＸ：052-961-6507
ＵＲＬ：http://www.nygs-office.com/
facebook：http://www.facebook.com/nygs.office

Trekking&Eco tour
20th Anniversary
山歩き&エコツアー
海外トレッキング・国内登山ツアーの専門旅行会社
初心者からベテランまで…日帰りから海外登山…
年間総合カタログをご請求下さい。無料送付致します。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第1366号/日本旅行業協会正会員
アミューズトラベル株式会社
名古屋 TEL:052-588-5617 FAX:052-588-5618
〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-17-14 鈴木ビル5F
ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp

観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員
アルパインツアーサービス
海外トレッキング／世界の山旅　専門旅行会社
まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
個人＆グループでのご利用お待ち申し上げます
名古屋営業所 TEL：052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-23-6 第２千福ビル８階
FAX:052-561-8338　E-mail:nagoya@alpine-tour.com
ホームページ　http://www.alpine-tour.com

◆9・10月スケジュール

月　日	内　　容
9. 4	常任理事会（ＯＭＣビル）
9. 9	第２回気象講習会（豊川高校）
9.11	県民登山説明会
9.21～23	中高年安全登山指導者講習会（石川県）
9.30~10.2	第67回国民体育大会（岐阜県）
10. 2	常任理事会（ＯＭＣビル）
10. 7	県民登山教室
10. 9	第２回登山勉強会（東三）
10.14	第32回自然観察会（伊吹山）
10.16	第２回登山勉強会（県スポーツ会館）
10.20～21	救助技術講習会・研修会（南山）
10.28	第12回植生保護活動（鈴北岳）